

湖国で輝く 企業を訪ねて

有限会社 インテリア ナガオカ

代表取締役社長 細田 弘 氏



人脈こそ宝物、信頼関係を 裏切らない商いをこれからも大切に



光触媒定着装置を導入する時は不安ばかりでしたが、地元の金融機関に応援していただき、背中を押されるように前に進むことを決意しました。

これまで小さな縫製工場がカーテン一筋でやってこられたのは、より良いものを作りたいという想いを持ち続けたことと、当社を応援し、力になってやろうというまわりにいる方々とのパートナーシップのお陰だと思っています。人脈こそ当社の宝です。お客様はもちろん、金融機関や業者さんなどの信頼関係を大切に、決して裏切らない商いをモットーにしてきました。

自社だけ良ければというのではなく、人に良くすることでまわりまわって自分に帰ってくる、これからもそういう想いを大切にしていきたいと思います。

企業データ

本社 / 〒521-0241
滋賀県米原市西山151

創業 / 1971年11月

従業員 / 31名

事業内容 / カーテン製造

HP / <https://www.i-nagaoka.jp>



企業ポリシー

- クオリティの高い製品、他社にない付加価値によって生き残りを図る。
- 品質向上、作業効率の向上のために投資と工夫を惜しまない。
- 取引先、従業員、地域とのパートナーシップのもと信頼関係を大切に誠実なビジネスを貫く。

カーテン製造一筋の老舗メーカーが生き残りをかけて独自開発した

光触媒による空気清浄機能カーテン

バーコード管理システムを独自に開発

20代の頃、彦根のファウンデーション(下着)製造業で、縫製の仕事をしていた代表取締役社長の細田弘氏は、縫製会社を退社後、米原市で内装業を立ち上げ、縫製技術を活かしたいとカーテン製造技術を学び、徐々にオーダーカーテンの製造に特化していきました。ホテルや結婚式場の建設が相次いだことで、カーテンの需要が伸び、また工務店などの紹介で注文を受けるようになったことから、金融機関の融資を受けて現在の工場を建設、ドイツ製ミシンなどの機器に投資し、面積でもシステムでも県内一と誇れる工場を目指しました。

細田社長が設備投資に強い思いを持つのは、20代の頃、前職で韓国のメーカーを視察した時のできごとがきっかけで、国の後押しで導入されたドイツ製の高性能ミシンが整然と並んでいる様子を見て、日本の縫製業界の未来に危機感を持ったと振り返ります。

さらに同社はソフトウェアにも力を入れ、サイズ、仕様、布種、納品先までバーコードで管理するシステムを独自に構築しました。

当時、工場を統括的に管理する仕組みはなく、縫製機器などの展示会に熱心に通って、これは応用できるのではと思った技術を見つけると、業者と交渉して機器の改良に取り組んだ結果、人ではなくモノが動くオリジナルのラインが誕生しました。「ロスが少なく、ミスが出ないことで、従業員の負担も軽減できる工場を目指した」と言う細田社長。「もっと良いものを作りたいという思いで、絶え間なく設備投資をしてきた」と語ります。

付加価値を目指し 抗菌消臭機能カーテンの開発に挑む

平成元年から大手メーカーの委託を受けてカーテンの製造を始めると、グループの中でトップレベルの技術と認められるまでになり、家具店からのオーダーカーテンの注文も増え、平成15、16年頃まで順調に売上が伸び続けました。

ところが、ホームファッションの台頭により、オーダーカーテンや高級カーテンの需要に陰りが見えだすと受託生産は激減、従業員のことを考え、事業を縮小し家内工業に戻ることも考えますが、付加価値の高い製品開発を目指すことになり、カーテンに抗菌消臭加工を行ったオリジナル製品に活路を見出すこととなります。「付加価値を付けても、売り先も決まっていなかったのではリスクが大きすぎる」と言われながらも、地元の金融機関が後押ししてくれたこともあり、この技術に社運を託すことを決意しました。

そんな時に出会ったのが光触媒技術で、滋賀県立大学工学部材料科学科の秋山毅准教授からアドバイスを受けて、試行錯誤しながらオリジナルの光触媒加工装置の開発に取り組みました。

そして2015年にもものづくり補助金で、カーテンに高性能光触

媒を吹き付けて定着させる装置が導入されました。

高性能光触媒カーテン 『AIRPURIC(エアピュリック)』を主力商品に



全長16メートル、高さ5メートルの光触媒定着装置

同社が開発した光触媒加工は、防災機能を損なうことなく、洗濯しても機能が落ちません。それだけでなく、照明器具などの室内光でも効果を発揮する『可視光応答型光触媒』で、有害物質を90%以上分解・除去することができます。

当初、抗菌防臭加工製品であることを、一般社団法人繊維評価技術協議会が認証するSEK認証が取得できませんでしたが、それでも評価してくれるお客様と強い信頼関係を築くことができました。

4年目でようやくSEK認証を取得すると、病院や介護施設、ホテルなどから注目が集まるようになりました。昨年からは、滋賀県産業支援プラザのトップランナー育成支援事業を活用して『AIRPURIC(エアピュリック)』というブランドネームを立ち上げ、長男さんが中心となってブランドイメージの確立に取り組み、一般ユーザー向けのネット販売にも力を入れていく予定です。

また、新型コロナウイルスの流行による衛生意識の高まりを受けて、防カビ、抗ウイルス性能を加える研究も進めています。『AIRPURIC』のロゴは4つの十字で井形が形成されていますが、抗菌・防臭・防カビ・抗ウイルスの4つの機能がある、そういったブランドにしていきたい」と細田社長は想いを語ります。

